

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

日教組第 99 回定期大会 岩手・宮城・福島各県からの報告②

宮城県教組 齊藤委員長 ・ 宮城ネットワークユニオン 高島委員長 より

齊藤委員長より

被害の状況の詳細については、いくつか数字だけ申しますと、宮城の公立の幼稚園・小学校・中学校・高校の子どもたちの犠牲者が 311 人、それにまだはっきりとはしませんが、県立の幼稚園や保育所の子どもたちを含めると、400 人を超えます。これだけ多くの子どもたちが犠牲になっています。いわゆる震災孤児といわれる両親を失ってしまった子どもたちが 101 人ということになっています。私たち教職員の仲間は 16 人が犠牲になりました。

新聞・テレビ等でも全国に報道されていると思いますが、大川小学校というところでは、教職員が当時いた人のうち、一人を残してみんな犠牲になり、子どもたちも大勢亡くなっています。現在そういった様々な困難を、乗り越えながら学校が再開されていますが、新たな困難が起こっています。

避難所にくらす子たち、それから遠くの親戚のところに避難した子たち、そういった子たちにとっては、通学の困難が常に付きまっています。それから食事の困難も付きまっています。例えば学校に行って給食を食べますが、簡易給食です。ある中学校の献立を紹介しますと、ごはんとふりかけと牛乳、次の日もご飯とふりかけと牛乳。違うふりかけを用意するのが、献立の工夫なんです。そしてふりかけでないときは小さい袋に入った佃煮みたいなものです。パンと柏餅と牛乳というときもあったそうです。

だんだんと完全給食になっているところが増えてきていますが、それでもまだまだ貧困な食事の内容が続いているところが少なくありません。魚肉ソーセージがついたら、おかずがついたぞと大喜びだったそうです。そういった状況がなんとかならないものかというふうに感じます。子どもたちの健康はどうなるんだろう、ということも非常に心配です。カロリーを調べてみたら、普段の給食の 6 割から 7 割になるそうです。それで、1 日学校生活を過ごすということですから、とんでもないことだと思います。

教職員もずっと仕事を続けてきていますから、夏休みをゆっくり休ませたいという話がありましたが、宮城ではいわゆる授業日数・時数の問題で夏休みを大幅に短縮するところが増えていています。通常 8 月 25 日まで宮城の場合や休みですが、8 月 16 日で夏休みを終わりにして 17 日から 2 学期をはじめるとい学校まで出てきています。本当に子どもたちや教職員がゆっくりとした時間を過ごすということを保障したいのだけれども、通常にもどすという形でいろいろなアクションといいますが、そうすることが学校をおそっているという感じです。指導主事訪問というのも 2 学期から始めるぞということになりました。

そういった状況のなかで、本当に子どもたちと教職員の心、そして体の健康が危ぶまれる状況にあります。教職員や子どもたちの命と健康、それを大事にする私たちの活動、これから長い道のりになりますが頑張っていこうというふうに思っています。今後ともみなさんのご協力をお願いしたいと思います。



高島委員長より



連合ボランティア、そしてまた日教組独自のボランティアを県に派遣していただき、また派遣教職員ということで東京あるいは兵庫から養護教員、一般教職員を派遣していただきましてありがとうございます。特に、養護教員の方には、学校は被災しなかったけれども、被災した生徒の多いところに入っていただいて、まさに心のケアをしていただいたということで本当に助けられています。

こうした中でさきほど数字が出てきましたが、その数のなかに私がこの3月まで教えていた子も入っています。非常に悔しい思いをしています。

全体的な高校の話をしますと、水産高校や農業高校、あと石巻にあります女子商業などが使えなくなりまして、今年中に校舎を仮設して授業を再開するということになっています。しかし、そういう高校は他の高校を間借りしたり、あるいは間借りするにしても同じ農業高校で内陸までバスで移動して行き来していたりというふうな状況があります。貸し切りバスなので、教職員と生徒と一緒にバスに乗って現地まで行く、その中で授業をやっているという状況です。バスの中なのでメモをするのも難しいというなかで、本当に生徒も教職員も疲れていることだろうと思っていますし、実際にいまま高校でも避難所になっているところもあります。

こうした中で、つい先ごろですが、宮城県は来年の高校入試定員を300人減らすと発表しました。これで倍率は昨年並みの1.24倍だというような発表をしていますが、その発表を聞いて大変驚きました。ひとつには先ほどお話した被害を受けた高校の学級減、そして実際に被害を免れたんですが、原発のある女川町、ここにある高校をなくして特別支援学校にするということで、高校生の募集停止という形をとりトータルで300人減らすという発表でした。

希望する子どもたち全員が入れないのか、街から高校をなくすのかということで、こういう時期にやることではないだろうというふうなことで私たちも驚いていますし、何とか高校全入の基本をきっちりすすめていけるように運動にとりくんでいかなければならないと思っています。

私たちの組合は役員全員が非専従なので、それぞれ現場に戻っているんですが、私は定時制にいます。定時制のなかでも、子どもたちが小・中で不登校でも高校で来られるようになった子が今回の被害の中で、家から出られなくなった、学校に来られなくなったという子が出ています。いろいろ問題行動も頻発していて、その対応に追われています。非常に疲れる毎日が続いています。

皆様からいただきました見舞金ですが、気仙沼高校に定時制があるんですが、校舎の被害はなかったのですが、食料の供給が困難だということでそういうところに見舞金を差し上げています。今後は被災した生徒、あるいは進学者への奨学金、就学資金とかですね、あるいは高校の図書の実、そういったことに見舞金の使途を考えております。

また、私たちは、「復興をする会」というものを立ち上げまして、神戸の被災後の様子を撮られた映画監督を招いて、宮城でも復興の流れというのを撮っていかうじゃないか、より希望の見える形の動きをとというような作品をとっています。

この99回定期大会をうけて、今週末に私たちの定期大会をやります。皆様の気持ちをまた宮城に帰って伝えていきたいと思っています。非常に非力な組合ではありますが、みなさんのお力で復興をがんばって続けていければと思います。今後ともお守りいただければと思います。